

仏様のおはなし新シリーズ第52集その2 「台なし」

日常よく使われることばの中に「台無し」というものがあります。役にたたなくなることや物事がすつかり駄目になることとして使われます。「台無し」とは、文字通り台が無いつつことです。台とは蓮華台を指します。蓮華台とは仏さまがおられる台です。浄土真宗の場合では、お木像や絵像のご本尊の阿弥陀様がお立ちになられておられる青い蓮華台になります。ですから、「台無し」とは蓮華台を持たない生き方でありますから、仏さまの願いを知らずに生きると言えるのではないのでしょうか。

以前先輩のお寺のご住職さまにこのようなお話を伺いました。

ご住職さまには幼稚園児の息子さんがおられます。その息子さんがお寺の大事な壺を壊してしまった出来事があったそうです。ご住職さまは壊れた壺を見つけると、壺の置いてある部屋で遊んでいた息子さんを呼ばれました。「○○君。大事にしている壺が倒れて壊れてしまっているが、なんで壊れてしまったのかな」と聞くと息子さんは、首を横にふつて「知らないよ」と答えました。

ご住職さまは「おかしいね。地震が起こったわけでもないのに勝手に倒れないと思うが。○○君。あなたはこの部屋に独りでいたのだから。なにか知っているのでは」ともう一度聞きました。また息子さんは首を横にふり知らないという素振りをみせます。そこでご住職さまが「分った。じゃあ貴方のころのなかの『ののさま』に聞いてごらんなさい」とおっしゃいました。すると息子さんは少し考えて、「お父さん、ごめんなさい。本当は僕が遊んでいて、体を当てる壊してしまいました。」と正直に話されたそうです。

わたしは、阿弥陀さまの願いを聞いて生きること
は、このようなことだろうと思うのです。阿弥陀さ
まは我々がすることに一喜一憂されるのではな
く。わたしのことはすべてお見通しになられたその
上で、わたしを見過ごすことが出来ない、仏に仕上
げてみせると願いを建てて下さいました。こちらが
気づかされる以前から、蓮華台の上から立ちつぱ
なして呼びつぱなしの阿弥陀さまです。蓮の華のよ
うに泥の中に育ちながら、そこに深く根を張り泥
に染まらず素晴らしお悟りの華をそこに咲かせた
いという願い。蓮華台をもつて生きるとは、すべての
いのちの尊さ、あなたのそのままが尊いという阿弥
陀さまの願いに気づかされる歩みだと思えます。
気づきの無い「台無し」の人生を送ることは虚し
いことです。

